

産科発の子育て 支援システム構築

妊娠中から切れ目のない支援を目ざして



産後の精神支援パンフレット
10代の妊婦用パンフレット
妊娠中のDVパンフレット
配布中

日時: 2010年11月27日(土)
13:00~16:00

会場: 岡山大学鹿田キャンパス
医学部 臨床第1講義室

13:00~13:05

あいさつ

日本産婦人科医会 岡山県支部長 丹羽国泰

13:05~13:35

これから始まる

「産科発の子育て支援システム」

日本産婦人科医会 岡山県支部理事
岡山大学大学院保健学研究科 中塚幹也

ハイリスク妊婦 13:35~14:15

「飛び込み分娩」

就実短期大学 幼児教育学科 笹倉千佳弘

「産後うつ」

岡山大学病院周産母子センター 増山 寿

シンポジウム 14:25~16:00

「助産師から：気になる妊婦はどうしたら・・・？」
「保健師から：産科との連携例」
「子育て支援グループから」 NPO 子ども達の環境を考える ひこうせん

◆指定発言「福祉分娩の実際と課題」

◆指定発言「支援の現場から産科に求めること（調査より）」

<総合討論>

座長 産婦人科医会

倉敷成人病センター

中央保健センター

岡山市立病院

岡山大学医学部保健学科

岡山大学医学部保健学科

中塚幹也

高橋澄子

平山晶子

赤迫康代

高谷若恵

山本美香子

日本産婦人科医会 岡山県支部

〒703-8278 岡山市中区古京町1-1-10-602 県医師会内

岡山大学COE

「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム

岡山大学大学院保健学研究科 育成プログラム事務局

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1

Phone & Fax: 086-235-6538 E-mail: josan@cc.okayama-u.ac.jp

助産ネットURL: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/josan/index>



公開シンポジウム 『産科発の子育て支援システム構築』 妊娠中から切れ目のない支援を目指して

日時: 2010年11月27日(土)

13:00~16:00

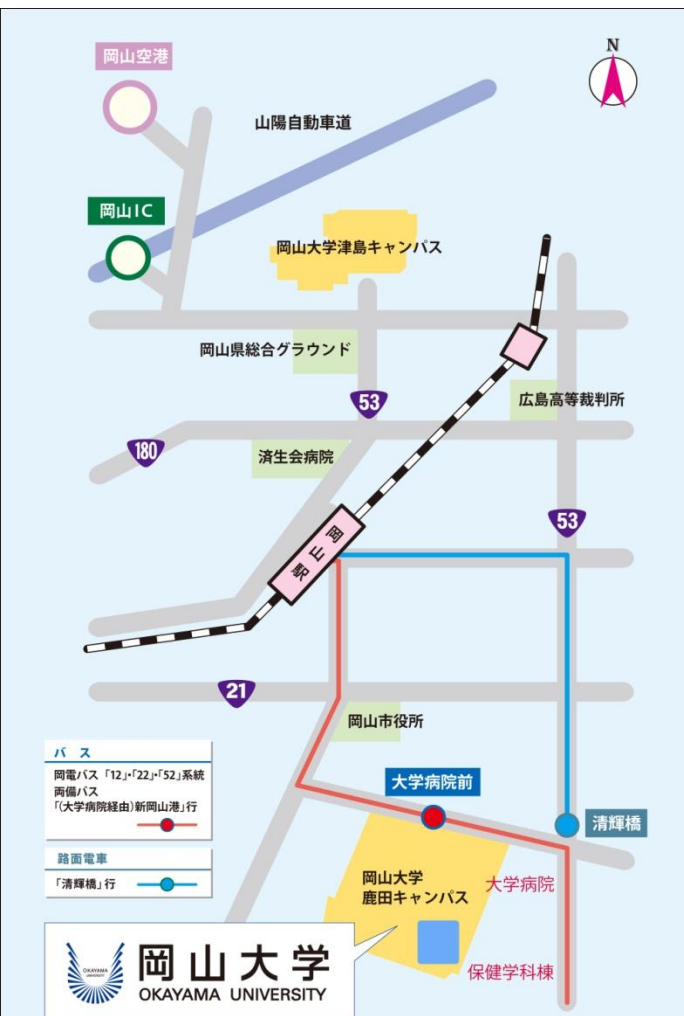
会場: 岡山大学鹿田キャンパス
医学部 臨床第1講義室

核家族化などに伴う家族機能の低下により、子育ての孤立や育児不安を抱えている親が増加しており、子どもへの虐待の相談件数増加も加速するなど、大きな社会問題となっています。日本産婦人科医会岡山県支部では、2008年に「飛び込み分娩」の調査などを行いました。その背景には、未婚、未成年、貧困、パートナーからのDV被害など種々のリスク因子がかかっていることが分かりました。

地域保健の現場では、乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)により産後4か月以内には訪問が行われ、親子の心身の状況や養育環境等の把握が行われていますが、訪問が行われる前に、新生児のネグレクト、身体的虐待などが発生している現状があります。

「産科施設」は、母子と社会との最初の接点であり、妊婦への医療的な支援が産科医師、助産師により行われています。しかし、分娩が済み、1ヶ月健診が終了すると、何となく気になる母子に不安を感じながらも見送る形になっています。現在、ハイリスク妊産婦連絡票などにより、産科から市町村への情報提供がなされており、実益が上がっていますが、それかられ落ちてしまう母子の中には、依然として問題を抱えている場合も多く見られます。

産科施設において、医療面でのハイリスク群のみではなく、社会的リスクに関しても把握し、早期に地域保健の支援につなげていただくためのシステム構築に向けて、概要をご理解いただくための講演会とシンポジウムを開催したいと考えています。ぜひ、ご参加ください。



日本産婦人科医会 岡山県支部
〒703-8278 岡山市中区古京町1-1-10-602 県医師会内
岡山大学COE
「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム
岡山大学大学院保健学研究科 育成プログラム事務局
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1
Phone & Fax: 086-235-6538 E-mail: josan@cc.okayama-u.ac.jp
助産ネットURL: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/josan/index>